



# 白子川な人

(その10 / 最終回)

「メダカ博士」の **大塚重雄**さん

(南大泉在住)

■白子川では「メダカ博士」として有名な大塚さん、その人生はまさに波乱万丈。四谷の米屋に奉公、兵隊として戦場へ、復員後は都交通局で都電運転手を18年務め、都電縮小に伴い45歳の時、井の頭動物園へ転勤、熱帯魚や水鳥の飼育に関わった。退職後は城北中央公園のサイクリング指導員■とにかく幼いころから動物が好きだった大塚さん、井の頭時代は水鳥の繁殖に励んだ。コクチョウ(黒鳥)を30羽繁殖させたことがあった。1羽8万円でそれぞれ引き取られていった。当時の大塚さんの1ヶ月の給料が8万円だった。ホホジロカンムリヅル・オオヅル・クロヅル…絵に描いて動物園に来た人に名前を覚えてもらった。だから今でも絵を描くのが好き■クロヅルの繁殖に初めて成功した。1969年7月7日。当時の日本にはデータがなかった。他の動物に与えるために仕入れてきた生きのいいアジの、目玉だけ取り出して、ヒナにあげてみた。ヒナたちは喜んだ。園内を散歩もさせた。やがてヒナたちは犬と同じように、大塚さんの足をつついて散歩をせがんだ。自分の子供のように可愛かった。しかし、園は大塚さんの休みの日にクロヅルをよそにやった。悲しかった。今振り返っても、悲しい気

- 川の全国一斉調査実施
- 大泉南小の白子川学習サポート
- 白子川源流まつり PR (10月28日開催)
- アユ prj4「黒目川仮魚道設置」に参加
- 合流式下水道の問題(図解)
- 新会員紹介
- 定例活動報告



源流まつりでは、毎回、得意の日本画を手作りの額で展示

持ちがこみ上げてくる■その経験が買われて、佐渡のトキ繁殖委員に選ばれた。多摩・上野・井の頭の三つの東京都立動物園からメンバーが集められた。上野動物園の名物園長だった中川志郎さんも一緒だった。やさしい人だった。2週間ほど、佐渡に出張した■最初のメダカは「武蔵関の市」で買った。2000年9月9日、クロメダカを200匹、武蔵関公園の池に放流した。10月7日、ヒメダカ480匹を48人にあげた。翌年からは源流まつりで分けてきた。大塚さんは言う。「私は動物を育てるのが好きだ。軍隊ばかりが国につくす方法ではない。みんながそれぞれの方法で幸せになればいい」。実は、もうやめたはずのメダカが今年もたくさん大塚さんの家で育てている。

(東谷 篤/ぶん)

# 定例活動報告

4月、5月、6月、7月

湧水の豊かな源流部。小さな生物がスライスイと動いている。アメーバだ。水面を足で押して浮いている姿は、まるで透明の丸い浮き輪をはいているみたい。



## □白子川源流域の様子

### 水量ゆたかな源流！

春から夏にかけての水量は豊富でした。

気象庁のアメダスデータで、3年間の【練馬の雨量】を2月～7月の6ヶ月平均で比較すると、2010年…146mm

2011年…124mm

2012年…159mmでした。

特に3月、4月、7月の雨量は去年の約2倍にも。至るところから湧水があふれています。雨が降り⇒大地に浸みこまれば⇒湧水が増えます。

推測ですが、カルガモの家族がほとんど見られなかったのは、増水によって卵が流されたからではないかと思えます。

一方、水量増加はホトケドジョウなどの水生生物にとっては恵みだったでしょうし、夏のアオミドロの発生も今のところありません。

COD等の水質や動植物も「源流らしい」姿でした。

### 元気な助っ人たち

「おいサスケっ!」「なんだよイグチっ!」と呼び合う少年二人が毎月の定例活動に参加してくれている。たぶん彼らは「会の活動に協力している」などではなく、もっと自主的というか自分本位だ。「おいらの白子川」と確信して作業しているのがなんとも痛快です。

## □源流域・水の測定データ

測定地点	日 天気 気温℃	4/28	5/27	6/24	7/22
		23	/	26	23.7
源流部	水温℃	20.4	測	18.6	17.8
	水深cm	18	定	20	33
	pH	5.2	せ	5.2	4.3
井頭橋	水温℃	22.0	ず	18.8	18.3
	水深cm	36	9	36	37
	pH	5.4	/	5.2	4.7

このほか、透視度、電気伝導度、COD、川幅、堰の流量などを測定している。

## 活動記録

5/2 源流通信第35号発行  
 5/15 大泉南小白子川学習の授業  
 5/24 和光市立第五小川体験サポート  
 5/26 黒目川「仮魚道設置」参加運営会議  
 5/27 定例活動  
 6/3 全国一斉川の調査  
 6/17 第12回定期総会  
 6/23 運営会議  
 6/24 定例活動(TOTO取材班、社長他)

6/26 大泉南小白子川学習の川体験  
 7/5 魚道ワークショップ参加  
 7/14 大泉南小白子川学習  
 井戸体験/雨水浸透枡  
 7/15 第2回源流まつり実行委員会①  
 7/21 運営会議  
 7/22 定例活動  
 7/28 黒目川「仮魚道アユ調査」参加  
 8/7 白子川整備事業工事内容説明会  
 8/末 TOTO助成金申請書作成(3回目)

新会員紹介 ☆ 小川 郁 かおる

今年の1月6日、菅沢博さんに案内していただいて、初めて源流の中を歩きました。湧水があることに大変驚きました。練馬区にもこんな場所があったのか、と。そのあと、白子川沿いに自転車を走らせて、カタクリが自生するという清水山憩いの森まで行ってみました。このカタクリは氷河時代の生き残り、らしいのですが、北斜面で湧水があり夏でも周辺に比べてやや気温が低く保たれる結果生き残っているのではないかと、言われています。私にとって二度目の練馬再発見でした。

私は練馬区関町、千川上水のほとりで生まれ育ちました。小学生のころにはカワニナが生息し、ヘイケボタルが飛ぶこともありました。就職して最初の赴任地が八王子で、練馬に比べて圧倒的に自然度が高く、浅川の近くにアパートを借りて住んでいましたので寒暖の差が激しい盆地の気候も経験しました。その後練馬に戻り三宝寺池に通ったのが最初の練馬の自然再発見、そして今回が二度目ということです。現在大泉二中の理科室でホトケドジョウ、ギンブナ、アブラハヤ、スジエビなどを飼育していますが毎日何人もの子どもたちが水槽の前で和んでいきます。練馬の自然もなかなかのものです。

源流に汚水が流入？

——合流式下水道の問題



放流出口

汚れる仕組み



白子川源流を歩くとイヤなおいがする。なぜか？

「合流式下水道」だからだ。この構造だと、雨水と家庭排水（汚水）を1本の下水管で下水処理場まで運び、処理後に河川に放流しますが、問題

は大雨が降った時に、下水処理場への流入を制限するために下水管に「雨水吐き室」を設け、「横流し」させて河川へ放流していることだ（図）。

放流出口は大泉井頭公園のマルバヤナギの下にある（写真）。23区内は8割が合流式という。分流式への道のりは遠いようだ。なんとかならないものか。（菅沢 博）

みず本紹介/①

「水惑星の旅」

椎名 誠 著



（新潮選書 2011年刊）

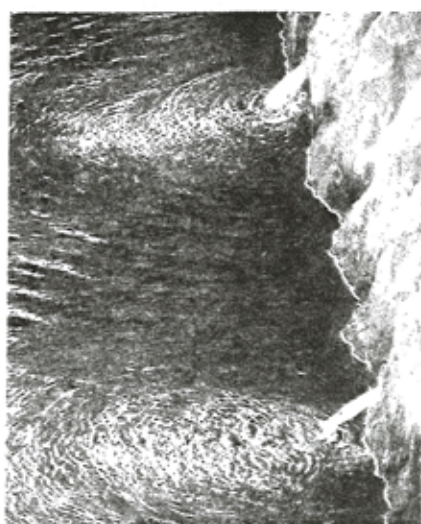
世界中をドカドカ歩きまわってきた、あのシーナが、焚き火も怪しい探検も我慢して、マジメに「水」に挑んだ本。いかに私たちが、世界の水事情に鈍感かがわかってくる。塩素信奉国日本、米国ではダム撤去の動き、雨水利用は世界の常識、荒れた日本の山林をねらう世界のウォータービジネス等々。日本と世界の水に警鐘を鳴らす。

（東谷 篤）

身近な  
水環境の  
全国一斉調査

6/3(日)  
報告

たぐさんの湧水が  
川を守っている  
(調査1カ月前に  
井頭橋の下で撮影)



身近な川の一斉調査は、1980年代半ば以降、河川や水辺など身近な水環境の保全への市民の意識の高まりとともに、荒川や多摩川、霞ヶ浦や琵琶湖など全国各地の流域で行なわれています。水辺の会では、会発足(2001年6月)翌年から正式に参加し、今年も6月3日(日)に調査を行ないました。

おもな水質検査項目 (Yahoo 水質検査パックテストサイトより)

<COD(化学的酸素要求量、化学的酸素消費量)>

- ・水中にある物質が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素量のことで、どの程度水が汚れているかの目安になる。
- ・CODが高いと、水中の酸素を消費する物質(有機物など)が多く入っているということで、生活排水や工場排水などの汚水が混入している可能性があり(汚れている)、水中の酸素が足りなくなり魚が棲めなくなったり、自然浄化作用が弱まったりする。

<硝酸性窒素・亜硝酸性窒素>

- ・硝酸・亜硝酸性窒素はフミン質や動植物の腐敗物質やし尿、畜産排水、化学肥料などの窒素分が腐敗により分解され、水が汚染されることにより検出される。

<アンモニア態窒素>

- ・排水中のアンモニア態窒素は水の汚染指標として重要で、水系におけるアンモニア態窒素の存在は、近い過去にし尿・(糞尿を含む)による汚染のあった可能性を示す。

<リン酸態リン>

- ・「富栄養化」を引き起こす栄養塩の一種で、リン酸態リンが増加すると植物プランクトンや藻類の異常発生などを引き起こし、環境に大きな影響を与える。
- ・近年は家庭用洗剤が無リン化されたことにより、比較的低濃度となっている。

## 第12回 定期総会報告

6月17日(日)、東大泉地域集会所で第12回定期総会が開催され、前年度の活動報告・決算報告・新年度の活動方針と予算・運営体制等が承認されましたので概要をお知らせします。(詳細は議案書のとおりです)

### 活動内容

毎月の定例活動/第12回白子川源流まつり/白子川グッズの販売促進と在庫確保/近隣小学校の総合学習への協力/白子川の学校用教材/湧水対策としての井戸掘削調査/聞き取り調査/白子川体験の受入れ、出前講座/『湧水の白子川』表示板の取付け/大泉井頭公園整備計画への取組み/白子川河川整備事業への取組み/行政への働きかけ/汚水の流入問題/白子川に影響を及ぼすような地域の諸問題については、その都度運営会議にて対応/運営会議の定例化/若い会員の加入促進/会報年3回発行/ホームページの管理・運営/TOTO水環境基金の助成金申請

- ◇天候：調査時点 曇り、水質検査時点(カフェみなみ) 晴れ
- ◇集合：源流部 9:00
- ◇参加者：19名(会員16名、飛入り3名)
- ◇調査ポイント：3地点(源流部・日の出橋・中島橋)
- ◇調査項目：気温、水温、川幅、流速、水生生物、水生植物



手伝ってくれた井口君(右)とサスケ君。定例活動でも活躍



採取した水や生物を「カフェみなみ」のデッキで分析

### 調査結果の概要(調査3地点)

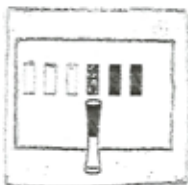
＜調査ポイント＞ 水量は例年と比し若干多く、水生植物種は豊富で植物群は世代交代を繰り返しながら繁茂し続けており、水生生物種も植物群の多様性を反映してか例年より多く観察できた。

＜水質検査＞ 水質環境の悪化は見られなかった。

＜新しい参加者＞ 今年の一斉調査は、会員以外から暉峻淑子さん、井口君とサスケ君の3名をお迎えし、少年たちは日の出橋、暉峻さんは源流部のポイントを担当し大活躍。特に暉峻さんにおかれては、自ら川に入られて少女時代に戻ったように楽しんでいたのが印象的でした。先生、定例活動にもぜひお越し下さい！

### COD測定のやり方

- ① 試薬を入れるバックに小さい穴をあけ、スポイト式に半分くらい吸いこむ
- ② よく振り、5分後に反応色を比較する



「一斉調査」の結果については、今年も、新河岸川水系水環境連絡会から、流域各地点の調査結果を取りまとめて発表される予定です。「全国一斉調査」により、河川や水辺の様子や水質などの現状が把握できることに加え、「一斉調査」を継続して実施することにより水環境の変化やその要因が明らかになります。

「一斉調査」は、水辺の会の今後の水環境の保全活動に示唆を与えてくれる重要な活動の一つと位置づけられており、調査報告が楽しみです。(永井 薫)

役員 代表・菅沢博 副代表・東谷篤 会計・永井薫

運営委員 池野明男、渋井良郎、渋谷瞭司、菅沢博、鈴木安友、東谷篤、永井薫、秦康博、町田勇、横山松栄、鷲田芳夫、渡部薫

係 清掃=渡部薫、高橋典郎/水質調査=横山松栄、望月孝/生物調査=横山松栄、池田正/源流まつり=菅沢博/行政担当=東谷篤/井頭公園整備計画(未定)/一斉水質調査=横山松栄、鈴木安友/学校教材=東谷篤/白子川グッズ=永井薫、菅沢博、東谷貞子、菅沢恵子/会報=東谷篤、東谷貞子、菅沢恵子/会報配布=菅沢博、渋谷瞭司/記録=東谷貞子、山科順/倉庫管理=浦口美代子/助成金申請=菅沢博/ホームページ=菅沢博/名簿管理=/会計監査=竹内尚代、宇津木節子



6月26日(火)、授業のあとに川体験

大泉南小学校4年生

## 白子川学習

今年も、大泉南小学校4年生の総合学習『白子川博士になろう』が始まりました。5月15日はキックオフ授業、5月18日は先生方の川体験、6月26日は全員の川体験、7月14日は井戸による“水の道”体験と、“雨水の地下浸透”体験でした。こうした学習を経て4年生一人ひとりのDNAに、白子川や地下水や大泉の自然が、きっと刻み込まれるだろうと期待しています。



キックオフ授業で白子川を紹介した

今年初めの大泉南小での「白子川授業」が、5月15日(火)午後開催されました。4年生124名が視聴覚室に集められ、会から派遣された菅沢、横山が講師をつとめました。

最初に横山講師から白子川に棲む生物についてパワーポイントで解説しました。魚類は、ホトケドジョウ、ギンブナ、アブラハヤ、虫はハグロトンボやアサギマダラ等の蝶、カルガモ等の鳥、外来種の植物などを映像にしたものを説明しました。続いて菅沢講師(代表)から、アフリカの砂漠に棲むキリアツメムシが砂漠に長時間逆立ちし、僅かな水分を確保しようとしているさま、近所の猫がたとえ雪が降ろうとも同じ場所でトイレで用足しをするさま、ニンゲンの子が源流の崖をよじ登る姿、3種の奇行の説明が、子供たちの歓心を集めていました。(横山松栄)

7月14日、みどり広場で大泉南小4年生(124名)の白子川学習3回目を行いました。私は初の経験で、井戸を担当しました。まず、①ヒモがついた乾電池を井戸の中に落とし音を聞く/②棒を入れて井戸の深さを測る/③ライトで水面を確認する事の説明でした。菅沢さんのアドバイスもあり、説明の時は最初から答えを言わないように、「この穴に乾電池を落としてみます。どうなるでしょう？」のような話し方で、まず興味を持たせて⇒体感させて⇒説明するような形で進めました。



源流近くの森の井戸から不思議な音が聞こえた

特に4年生から質問はありませんでしたが、私自身もう少し地下水の事を勉強しておけば良かったと反省しています。4年生は真剣に私の話を聞き、メモっている姿を見ると間違った事は言えないですし、せっかく興味を持ったのだから、白子川博士になれるように、さらに興味が増す話が出たらと思いました。(八本賢二)



## 黒目川「仮魚道設置」に 参加して

秦 康博

保谷駅から自転車で15分くらいの石神3丁目に、「石神落差工」(川の中にある堰)があります。落差は70cmほどあり、魚たちの遡上を阻んでいます。その堰の左岸の下、幅2mに土嚢を積んでいき、滝ではない「流れ」を作り、魚が上っていける道を作るのが今回の作業でした。

土入り土嚢92袋、川砂利入り土嚢108袋、堰の上側にブロックを積み、水の流れを抑えて、水中に土嚢を入れていきますが、土入り土嚢は水流で、真っ黒になって解けていきます。そのために最初に土入り土嚢を沈めて、その上に砂利入り土嚢を積んでいきます。水はなかなか思い通りには流れてくれません。あれこれと工夫しながら何回も積み替えて、ようやく滝ではない、流れの魚道ができました。私の仕事は、砂利の土嚢作りでした。

設置された水中カメラでは、ウキゴリの幼魚などが写り、ナマズも上ったとのこと。苦勞の末に作られた魚道でしたが、その後の雨による増水ごとに数回流され、そのつど補修され、6月30日の撤去まで実験は続けられました。白子川下流の東埼橋の落差工は3mもあるとのこと、いかなる方法をとればアユの遡上がみられるでしょうか。

「いつの日か白子川源流にもアユの遡上を」と、時折菅沢さんから伺っていました。2012年5月26日(土)黒目川でアユ遡上の実験のために、仮魚道設置の作業があることを聞き参加しました。



魚道設置前



砂利の土嚢作り



魚道設置後



木道で羽を休めるショウジョウトンボのオス。アカトンボよりあざやかな朱色が、源流でひととき輝きを増す。

### ■今後のスケジュール

- 9/ 1 (土) 源流まつり実行委員会
- 22 (土) 運営会議
- 23 (日) 定例活動
- 29 (土) 竹炭、焼印、わら筆づくり
- 10/14 (日) 源流まつり最終実行委員会
- 27 (土) 源流まつり準備 終日
- 28 (日) 第12回白子川源流まつり
- 11/24 (土) 運営会議
- 25 (日) 定例活動
- 12/22 (土) 運営会議
- 23 (日) 定例活動 竹キャンドル

### 編集後記

▼動物の本能からか、その日、我が家の飼い犬は、眠ることなく、ずーっと窓の外を見上げていた。目に映る夏の青空と木々の緑。そして、夕方、大きく息を3回すると、静かに呼吸を止めた。いのちの終わりは、驚くほどあっけない。しかし、振り返るほどに、その従順でさりげない最期に、心震える。(さ)

▼ミンミンミンと蝉が鳴きはじめると、ウチの狭い生け垣で抜け殻が見つかる。今年も庭で蝉が羽化しているとおもうと嬉しくなる。この間、メダカの大塚さんがその抜け殻を見つけて「もらえるかな、ツルの好物なんだ」と。以前飼育係を務めた動物園のツルに、いつかあげられたらと貯めてるそうだ。おもいもよらないことだった。(け)

※この会報は年3回発行しています

発行 白子川源流・水辺の会  
 編集 東谷 篤/東谷貞子/菅沢恵子  
 題字 宮本沙海  
 発行部数 1200部  
 代表 菅沢 博 03-3923-8430

練馬区南大泉 1-10-5

[suga-lohas@jcom.home.ne.jp](mailto:suga-lohas@jcom.home.ne.jp)

[http://www.geocities.jp/sirako\\_river/](http://www.geocities.jp/sirako_river/)